

11/8(金)
2年:点字教室



詩人画家

星野 富弘

ほしの とみひろ

一九四六年 群馬県生

一九七〇年 大学卒業後

高崎市立中保健体育科

教員

クラブ指導中、頸随損傷
し、肩から下の自由がな
くなる

「私にとってすごくいい経験になりました。私は目が見えるので、目の見えない人の事をあまり深く考えたことがありませんでした。なので改めて考えさせられる良いきっかけになりました。これからはそのような人を見かけたら、強引にせず相手に合わせる感じで手助けをしたいなと思います」

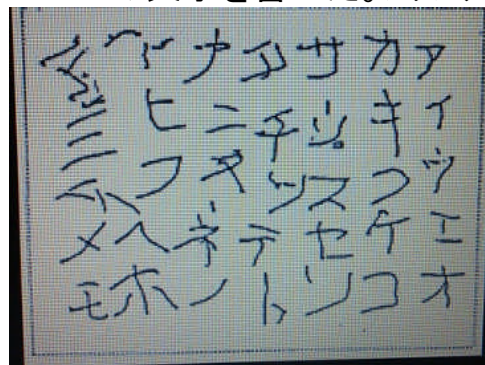
「皆さん、目が不自由でも、とても生き生きしてこちらが元気をもらいました」

「黄色い点字ブロックの所にはものを置かないように注意したいと思いました」

11/22(金)
1年:手話教室



1972年 口に筆をくわえ、最初のページに一つの文字を書いた。カタカナ「ア」



字が書けたと言ってもミミズがのたくったような字ですが、何も出来ないと思っていた私にとっては、

スポーツで新記録を出したような喜び！

星野さんの作品を紹介…

(3点)→花や果物が多いのは何故でしょうか？

ベッドで横向きになるのが楽しみでした。

ベッドの横にはいつも花がありました。お見舞いの人が持って来てくれたのを母が花ビンに生けて置いた。上を向いて寝ている私の目の片すみには、昼も夜もその花が映っていた。

点字教室、手話教室…

身近な所にも素晴らしい生き方している人がいます。
何事もあきらめることなく、
自分の夢に向かって
頑張りましょう！